



麻しん(はしか)について



(公財) 鳥取県保健事業団

鳥取市富安二丁目9 4 番 4

Tel 0857-23-4841

麻しんは空気感染するため、感染力が非常に強い感染症です。重症化する場合もあり、妊娠中の女性が感染すると、流産・死産・早産の頻度が高まるといわれています。麻しんについて知り、麻しんが拡がるのを防いでいきましょう！

麻しんの発生状況



麻しんは平成19・20年に10～20代を中心に大きな流行がみられましたが、予防接種を受ける機会を設けるなどにより、平成21年以降10～20代の患者数は激減しました。

平成27年には世界保健機関西太平洋地域事務局より、日本が麻しんの排除状態にあることが認定されました。しかし、今年に入り三重県や大阪府で麻しんの集団発生が起き、昨年1年間で282件だったのに対し、3月13日時点で304件と、昨年の報告数を上回っています。

海外では、南北アメリカと多くの中東、ヨーロッパ諸国は年間数例から2桁までの非常に少ない報告例となっています。その一方でアジアおよびアフリカ諸国では多数の患者の報告があり、特にウクライナ、インド、ブラジル、フィリピン、マダガスカルなどでは、多くの報告があります。

麻しんとは

麻しんは、麻しんウイルスが人から人へ感染していく感染症です。感染経路は、空気感染、飛沫感染、接触感染で、その感染力は非常に強く、免疫を持っていない人が感染すると、ほぼ100%発症し、一度感染して発症すると一生免疫が持続するといわれています。

免疫のない集団に1人の発症者がいたとすると・・・ インフルエンザの場合:1～2人が感染

麻しんの場合:12～14人が感染!!

麻しんの症状



前駆期(カタル期)

感染から10～12日後
・38℃前後の発熱が2～4日続き、倦怠感、咳、鼻水、喉の痛み、結膜充血、目やになどの症状が出る。
・頬の内側にコプリック斑と呼ばれる白い斑点ができる。

感染力が最も強い時期です。



発疹期

・カタル期の発熱が1℃程度下がった後、半日のうちに再び高熱(多くは39.5℃以上)が出て、3～4日続く。
・赤い発疹が耳の後ろから顔にかけて出始め、全身に広がる。

回復期

解熱し、全身状態が改善してくる。発疹が消えた後に褐色の色素沈着が残る。合併症がない限り、7～10日後に回復する。



麻しんに特別な治療法はなく、症状を軽減するための対症療法が行われます。

合併症には肺炎、中耳炎などがあり、患者1000人に1人の割合で脳炎を発症するといわれています。死亡する確率も、先進国であっても1000人に1人とされています。

その他の合併症として、10万人に1人程度で亜急性硬化性全脳炎(SSPE)と呼ばれる中枢神経疾患を発症することもあります。麻しんにかかってから4～8年後に知的障害、運動障害が徐々に進行し、予後は非常に悪いといわれています。

過去のワクチン接種の効果が弱まった場合など、麻しんに対する免疫が不十分な状態の人が感染した場合を「修飾麻しん」といい、潜伏期間が長くなる、高熱が出ない、発熱期間が短い、発疹が全身に出ないなど、軽症で非典型的な症状になることがあります。感染力は典型的な麻しんに比べて弱いといわれていますが、周囲の人への感染源となるため注意が必要です。

麻しんを予防するために



個人でできる唯一有効な予防法は、**予防接種を受けること**です！！

麻しんは定期予防接種が行われています。(1歳、小学校入学前年度の1年間の計2回)

ただし、平成12年4月1日以前に生まれた方は、定期予防接種が1回だった、または定期接種の機会がなかったため、麻しんの免疫が低い可能性があります。

(平成20年より5年間、中学1年相当、高校3年相当の年代に2回目の麻しんワクチン接種を受ける機会を設けられたため、2回目の接種をされている方もあります)

国内外の麻しんが流行している地域に行く前には、必ず事前に母子健康手帳等で、麻しんの既往歴やワクチン接種歴(2回)を確認し、麻しんにかかったことがなく2回接種していない場合は、予防接種を受けましょう。

麻しんワクチンとは・・・

麻しんワクチン(主に接種されているのは麻しん風しん混合ワクチン)を1回接種することによって、95%以上の方が麻しんウイルスに対する免疫を獲得することが出来ると言われています。また、2回の接種で1回の接種では免疫がつかなかった方の多くに免疫を付けることが出来ます。

麻しん風しん混合ワクチンはニワトリの胚細胞を用いて製造されており、卵そのものを使っていないため、卵アレルギーによるアレルギー反応の心配は、ほとんどないとされています。しかし、重度のアレルギー(アナフィラキシー反応の既往)がある方は、接種時にかかりつけ医にご相談ください。

麻しんワクチンは生ワクチンのため、**妊娠中の女性は接種できません**。また、おなかの中の赤ちゃんへの影響をできるだけ避けるため、**接種後2か月の避妊が必要**です。

麻しんにかかったかもしれないと思ったら

発疹、発熱、咳、鼻水などの麻しんのような症状があり、麻しん患者との接触があった、国内外の麻しんが流行している場所に行っていたなどの場合は、必ず事前に麻しんの疑いがあることを、受診する医療機関に電話などで伝えてから受診してください。

医療機関へ移動する時は、周囲に感染を拡げないためにマスクを着用し、できるだけ公共交通機関の利用を避けてください。

麻しんQ&A



Q：ワクチン接種をした方が良いのは、どのような人ですか？

A：定期接種の時期でない方で、麻しんにかかったことがなく、ワクチンを2回接種していない方は、かかりつけ医に相談ください。特に、医療関係者や児童福祉施設・学校等の職員など、麻しんにかかるリスクが高い方や麻しんにかかることで周りへの影響が大きい場合、麻しんが流行している場所へ行く場合、同居している家族に未接種・未罹患の妊婦、子どもがいる場合は2回目の接種の必要性が高いといえます。



Q：麻しんの予防接種を受けるのに、単独の麻しんワクチンの代わりに、MRワクチン(麻しん風しん混合ワクチン)を接種しても、健康への影響はありますか？

A：麻しんの予防対策としては、MRワクチンは麻しん単独ワクチンと同様の効果が期待されます。麻しんワクチンの代わりにMRワクチンを接種しても、健康への影響はありません。また、もしも麻しんまたは風しんにかかったことがある人がワクチン接種しても副反応が強くなることはありません。

